

2025
6 / 27

15:35-15:50

JaSST'25 Kansai

製造業からパッケージ製品まで、
あらゆる領域をカバー！
生成AIを利用したテストシナリオ生成

株式会社SHIFT
CATエヴァンジェリスト

石井 優 Suguru Ishii



その常識、変えてみせる。

SHIFT

登壇者紹介

ソリューション本部 デリバリ改革統括部
デリバリ改革部 サービスプラットフォームグループ
CATエヴァンジェリスト

その常識、変えてみせる。

SHIFT

石井 優 (Suguru Ishii)



経歴

2009/4 – 2014/11 倉庫系システム部門

2014/12 – 2015/7 東中野のPCサポート屋さん・石井屋

2015/8 - SHIFTにおいて、CATサポート、プリセールス、エヴァンジェリスト

CATほど
面白いプロダクトは
なかなかない！

CAT CM も
よろしくね！

大規模テストの進捗・品質を可視化 テスト管理ツール 「CAT」

約820社
約18,000ライセンス
(※)

※2025年3月時点



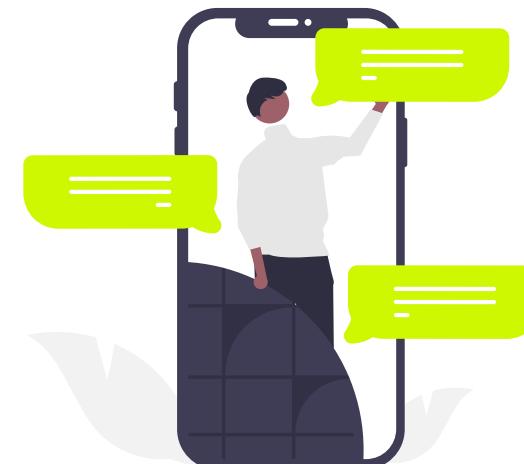
「テスト管理 CAT CM」で検索！

シナリオテストの洗い出し

生成AIを利用してテストシナリオの洗い出し手順をお伝えします。

アジェンダ

- 背景
- 取り組み概要
- 対象とするスコープ・利用者のペルソナ
- シナリオテストAIとは
- 実際の流れの説明
 - 想定するシナリオ
 - シナリオテストAI出力プロセス
 - UIの紹介
 - ステップ1～7
- まとめ
- SHIFT・製品紹介



生成AIを利用してテストシナリオの洗い出し手順をお伝えします

狙い

生成AI時代におけるシナリオテストへの向き合い方について、みなさまのヒントになれば幸いです。

想定メンバー

テストシナリオ作成にお悩みのテストリーダー・設計者・開発者ほか。

お知らせ

最後、とってもよいお土産もあるのでぜひ見てみてください。

本発表では生成AIにデータの入力を行っておりますが、機密事項には当たらない情報を取り扱っています。企業内のデータを扱う場合、各企業のポリシーに従って生成AIをご利用ください。

背景

シナリオテストは重要な反面、作成のプロセスが非常にむずかしい。



シナリオテストの
管理にTDを使えそう



製造業のお客様

シナリオテストの
洗い出しちゃむずかしい…！



YouTubeのコメント

シナリオの洗い出しを
手伝ってください！



テストサービスのお客様

YouTubeに寄せられたコメントより引用

新卒二年目のヒヨッ子社内SEなんですが、業務システム導入（影響範囲はかなり小さい）のUAT計画書の作成をせねばならず、この動画にたどり着きました....。

最初の導入のところで、あるあるの悩みに大共感して期待ワクワクで見進めていたら思っていた以上に難しそうで撃沈....。
結局のところ、「シナリオ」というのがどの部分になるのかがよく分からなくなってしまいました。

シナリオごとにテストケースを作るイメージを持っていたのですが、実行パターン表がそれに当たるのでしょうか？
どこかで言及されていたらすみません

シナリオテストのステップ分解とAI支援部分

複雑で迷いやすいシナリオを洗い出すステップをAIが支援

『6つのステップ』でシナリオテストを攻略！！

流れを掘る

① 業務プロセス分解

業務プロセスから分岐のないシナリオに分解

テスト観点を集める

② シナリオ整理

シナリオを1本に集約、分岐条件となる因子・水準を精査

流れに沿って
テスト観点をのせる

③ テスト観点の検討

テストで確認すべき観点情報を検討し一覧にまとめる

④ シナリオと観点紐づけ

整理したシナリオに検討したテスト観点を紐づけ

⑤ パターンの洗い出し

テスト観点を確認するためのパターンとなる因子・水準の組み合わせを決定

⑥ テストケースに展開

実際に手を動かす手順と具体的な期待値まで落とし込む

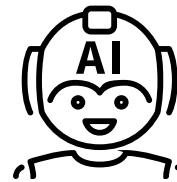
AIでの支援部分

取り組み概要

弊社内で生成AIを利用して、テストシナリオを洗い出す取り組みを実施

生成AIでのシナリオ洗い出しイメージ

ベテランのテスト設計者と一緒に相談しながら進めるイメージ



生成AI
(Dify + Claude)

シナリオテストについて
教えてください。

この理解であって
いますか？

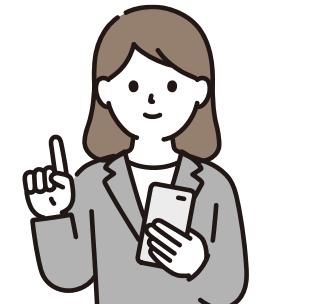
このテストは必要
ですか？

テストシナリオを洗い出しました
いかがでしょうか！

図書館システムの
貸出システムです。

はい。ユーザーがカウンター
に来て貸出終了までを
テストしたい。

貸し出し機能のみとして
ください。



テスト設計リーダー



シナリオの一覧を出力

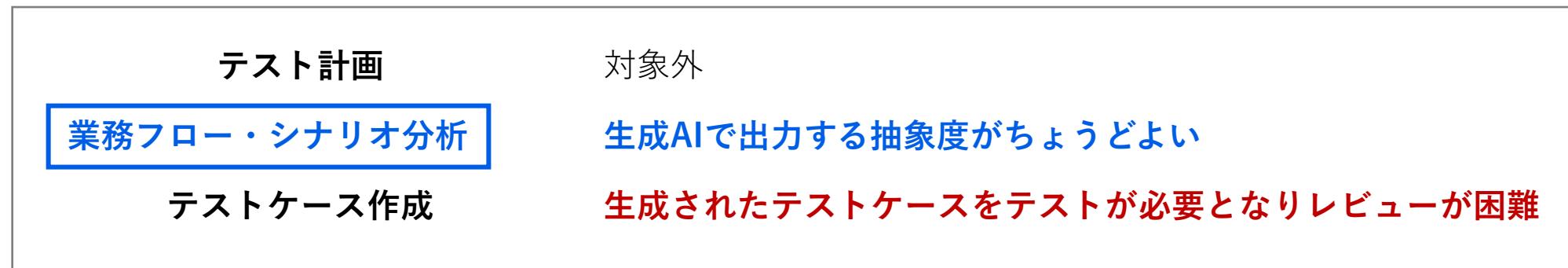
対象とするスコープ・利用者のペルソナ

一般的にシナリオ分析と言われるフェーズを補助。シナリオの抽出を支援。

対象となるフェーズ



支援するスコープ



利用者のペルソナ



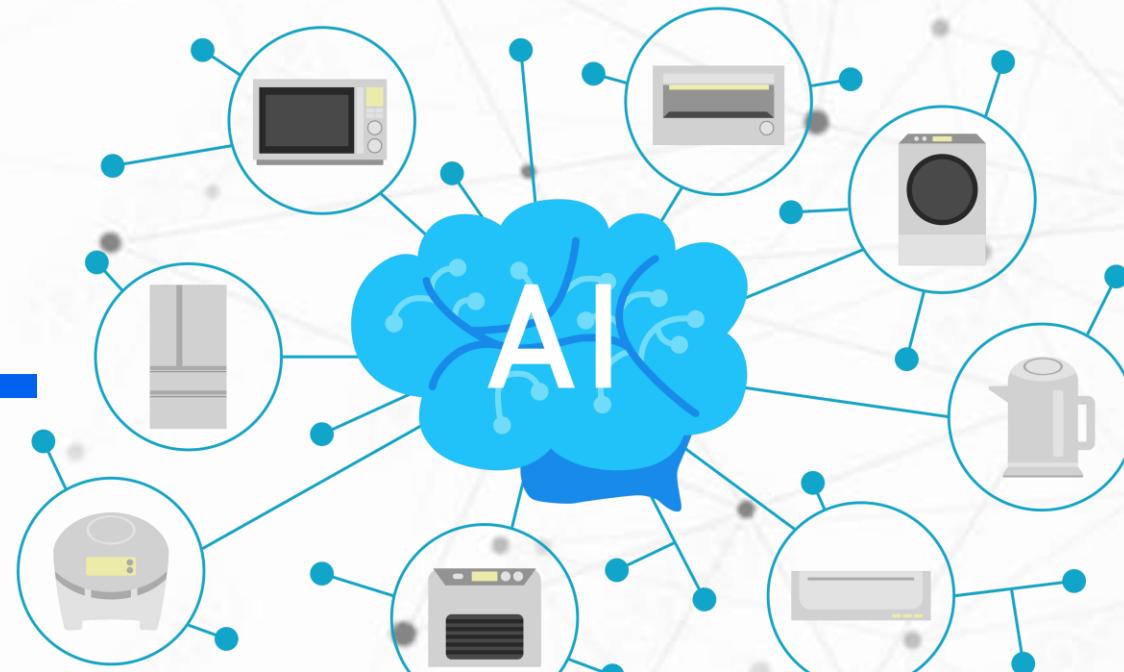
テスト設計リーダー

テスト計画の内容を受けて
ケース作成方針を決める

テスト設計リーダーが、
素早くテストシナリオの整理・抽出を行うことを
ブーストする



実際の流れの説明

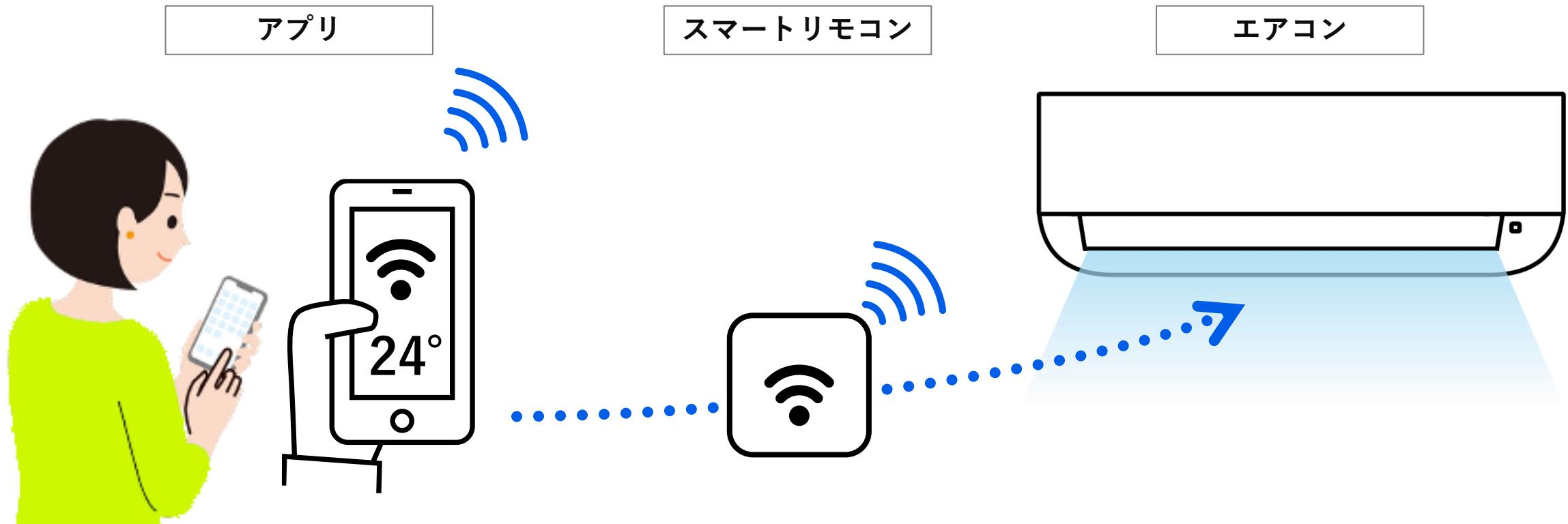


想定するシナリオ

その常識、変えてみせる。

SHIFT

今回は製造業系の仕様を入力。スマートリモコンのシナリオテストを想定



アプリでの指示により、スマートリモコン経由で
エアコンを操作するシナリオを作成

シナリオテストAI出力プロセス



その常識、変えてみせる。

SHIFT

①テスト計画把握

②シナリオテストAIアプリ実行

③テスト設計内容の決定

④テスト設計書作成 (TD)

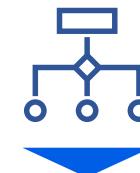
テスト目的の入力



仕様情報の入力
AIからの質問に回答



業務フロー図※を入力
フロー図がない場合は、
業務の流れをテキストで入力



網羅方針を指定
(分岐網羅、条件網羅、
アクティビティ網羅など)



1. テスト目的の明確化

2. 仕様情報の整理

3. 業務フロー分析&出力

4. 基本シナリオフロー出力

5. テスト観点出力

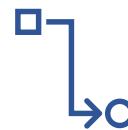
6. 因子・水準出力



整理された仕様情報を出力



網羅性分析が反映した
業務フロー図を出力



網羅方針を反映した
基本シナリオフローを出力

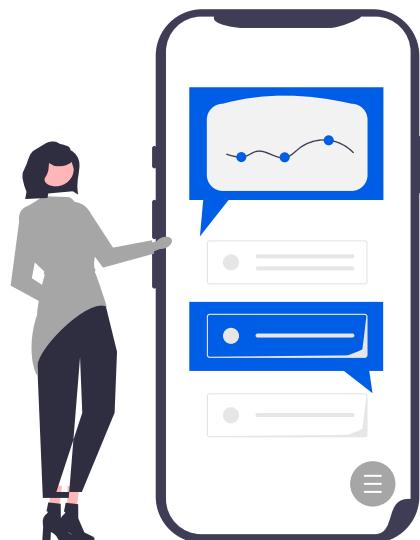


テスト目的に合った
テスト観点を出力



シナリオを確認するのに必要な
因子・水準を出力

チャット形式のUI（Dify）で 相談しながらつくれる



シナリオテストケース作成のお手伝いをします。まずはテストの目的を明確にしてていきましょう。
これらの情報をもとに、最適なシナリオテストの設計を進めていきます。

その常識、変えてみせる。

SHIFT

確認したい情報

1. テスト対象システムの概要について教えてください。
 - どのような業務やサービスをサポートするシステムですか？
2. シナリオテストの目的を教えてください。
 - 例：ユーザーがシステムを使って業務を正しく行えるか確認したい
 - 例：複数の機能が組み合わされたときに正しく動作するか確認したい
 - 例：データが正しく保存・表示されるか確認したいなど
3. テストの開始点と終了点はどこになりますか？
 - 例：ユーザーがログインしてから注文を完了するまで
 - 例：マスク設定を行ってから配達が完了するまで
4. テストの詳細さはどのレベルをお考えですか？
 - 例：隣接する業務の確認（外部結合テストレベル）
 - 例：システム全体の確認（システムテストレベル）

テスト対象システムの概要

スマートリモコンと、赤外線で設定できるエアコンの組み合わせで、シナリオテストを実施したい。
それぞれの機能は次の通り。

スマートリモコン 側の機能

(すでにペアリング済み・赤外線信号学習済みの前提)

ユーザーがスマートアプリからエアコンの電源をオン／オフできる

ユーザーが宅外（4G／5G）からもリモートでエアコンを操作できる

ユーザーが曜日・時刻を条件に自動ON／OFFするスケジュールを設定できる

ユーザーがGPSジョブスを設定し、帰宅／外出でエアコンを自動制御できる

ユーザーが内蔵センサー（温度・湿度・照度・人感）値をアプリで確認できる

ユーザーがセンサー値をトリガーに「10°C以上で冷房ON」などのオートメーションを作成できる

ユーザーがシーン（複数家電一括操作）を作成し、ワンタップまたは定刻で実行できる

ユーザーが赤外線リモコンの任意ボタンを学習し、カスタム操作を追加できる

ユーザーがAmazon Alexa／Google Assistant／Siriショートカットから音声で操作できる

ユーザーがIFTTT・Webhook REST API経由で外部サービスと連携できる

ユーザーが家族メンバーを招待し、同一デバイスを共有できる

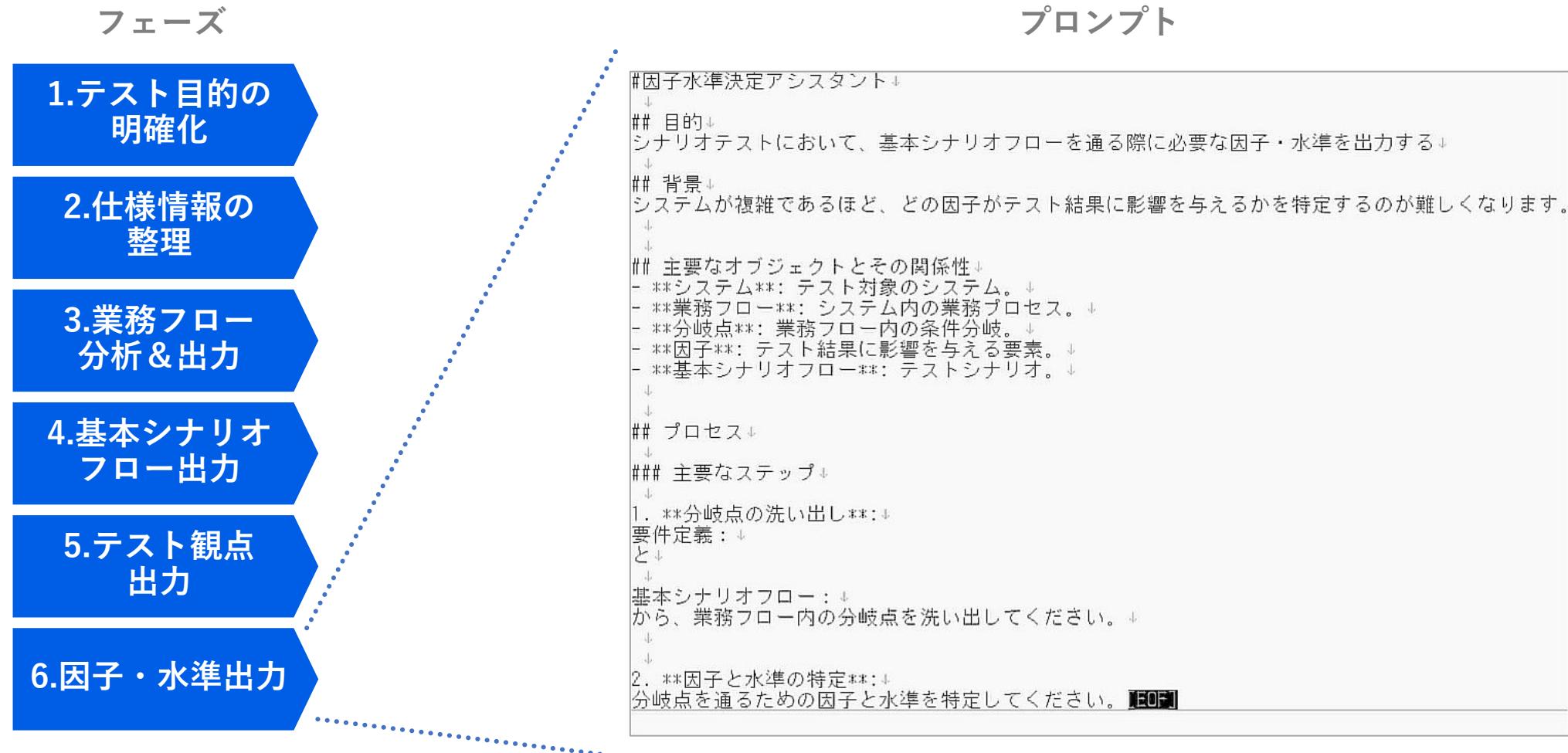
ユーザーが（スマートリモコン製品名）クラウド上の操作ログを確認し、いつ誰が何をしたか追跡できる

開発者が公式REST APIでセンサー値取得・家電コマンド送信を自動化できる

デバイスがOTAアップデートでファームウェアを自動更新し、新機能を追加できる

裏側

精通者がフェーズごとにプロンプトを定義し、ヒアリングアプリに仕立てた



ステップ1 仕様とやりたいことを伝える

AIが必要な初期情報を提示、わかりやすい

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力



シナリオテストケース作成のお手伝いをします。まずはテストの目的を明確にしていきましょう。これらの情報をもとに、最適なシナリオテストの設計を進めていきます。

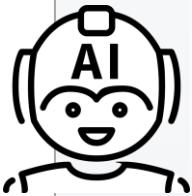
確認したい情報

1. テスト対象システムの概要について教えてください。
 - どのような業務やサービスをサポートするシステムですか？
2. シナリオテストの目的を教えてください。
 - 例：ユーザーがシステムを使って業務を正しく行えるか確認したい
 - 例：複数の機能が組み合わさったときに正しく動作するか確認したい
 - 例：データが正しく保存・表示されるか確認したいなど
3. テストの開始点と終了点はどこになりますか？
 - 例：ユーザーがログインしてから注文を完了するまで
 - 例：マスタ設定を行ってから配達が完了するまで
4. テストの詳細さはどのレベルをお考えですか？
 - 例：隣接する業務の確認（外部結合テストレベル）
 - 例：システム全体の確認（システムテストレベル）

AIが最初に聞きたいことを
提示し待ち構えている



- **システム概要**
画面キャプチャから言語化してもよい
- **テストの目的**
- **開始点と終了点**
- **テストの詳細さ**



ステップ1 仕様とやりたいことを伝える

案内に沿って必要な情報を入力

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

スマートリモコン側の仕様

テスト対象システムの概要

スマートリモコンと、赤外線で設定できるエアコンの組み合わせで、シナリオテストを実施したい。それぞれの機能は次の通り。

スマートリモコン 側の機能

(すでにペアリング済み・赤外線信号学習済みの前提)

ユーザーがスマートリモコンからエアコンの電源をオン／オフできる

ユーザーが宅外（4G／5G）からもリモートでエアコンを操作できる

ユーザーが曜日・時刻を条件に自動ON／OFFするスケジュールを設定できる

ユーザーがGPSジョブフェンスを設定し、帰宅／外出でエアコンを自動制御できる

ユーザーが内蔵センサー（温度・湿度・照度・人感）値をアプリで確認できる

ユーザーがセンサー値をトリガーに「〇°C以上で冷房ON」などのオートメーションを作成できる

ユーザーがシーン（複数家電一括操作）を作成し、ワンタップまたは定刻で実行できる

ユーザーが赤外線リモコンの任意ボタンを学習し、カスタム操作を追加できる

ユーザーがAmazon Alexa／Google Assistant／Siriショートカットから音声で操作できる

ユーザーがIFTTT・Webhook REST API経由で外部サービスと連携できる

ユーザーが家族メンバーを招待し、同一デバイスを共有できる

ユーザーが（スマートリモコン製品名）クラウド上の操作ログを確認し、いつ誰が何をしたか追跡できる

開発者が公式REST APIでセンサー値取得・家電コマンド送信を自動化できる

デバイスがOTAアップデートでファームウェアを自動更新し、新機能を追加できる

エアコン側の仕様

エアコン本体（赤外線で呼び出せる代表的な機能）

ユーザーがエアコンの電源をオン／オフできる

ユーザーが運転モード（冷房・暖房・除湿・送風・自動）を切り替える

ユーザーが設定温度を16?30 °Cの範囲で1 °C刻みで調整できる

ユーザーが風量（自動・弱・中・強・ターボ）を変更できる

ユーザーが風向（上下／左右スイッチ／固定角度）を指定できる

ユーザーがオンタイマー／オフタイマーを分単位で設定できる

ユーザーが省エネ（エコ）モードをオン／オフできる

ユーザーがパワフル／ターボ運転で短時間に室温を急変させられる

ユーザーが静音（しづか）モードで運転音を抑えられる

ユーザーがスリープモードで就寝中の快適温度プロファイルを実行できる

ユーザーが人感センサー連動省エネをオンにして無人時に自動停止できる

ユーザーが現在室温や設定状態を本体表示で確認できる

シナリオテストの目的

異常時、例えばネットワークが通信できない（アプリ側、もしくはスマートリモコン側）とか、エアコンの電源が入っていない、通信している間で通信が途切れたなどのものをやってほしい。

テストの開始点と終了点

アプリを操作して、エアコンに設定が反映されるまで。

テストの詳細さ

システムテストレベル



ステップ2 目的の提案に対して確認する

目的、範囲、異常系のカテゴリなどの情報を提示し合意

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

整理された目的や周辺情報



ワークフロー処理 >

シナリオテストの目的確認

お話を伺った内容から、今回のシナリオテストの目的は以下のように整理できます：

主要な目的

- ・異常系・例外処理の検証：ネットワーク通信障害や機器の状態異常など、通常と異なる状況下でのシステム挙動を確認する
- ・リカバリー処理の検証：通信途絶などの障害からの回復プロセスが適切に機能するかを確認する
- ・エンドツーエンドの接続性確認：アプリからの操作指示がエアコン本体に正しく反映されるかを検証する

テストの範囲と境界

- ・開始点：ユーザーがスマホアプリでエアコン操作を行う時点
- ・終了点：エアコン本体に設定が正しく反映される時点
- ・テストレベル：システムストレーベル（全体としての機能連携を検証）

検証すべき主な異常系シナリオのカテゴリ

1. ネットワーク関連の障害：
 - ・アプリ側のネットワーク通信断
 - ・スマートリモコン側のネットワーク通信断
 - ・通信中の一時的な接続断
2. 機器状態の異常：

洗い出された項目

■ シナリオテストの目的確認

- ・異常系・例外処理の検証
- ・リカバリー処理の検証
- ・エンドツーエンドの接続性確認

■ テストの範囲と境界

開始点：ユーザーがスマホアプリでエアコン操作を行う時点

終了点：エアコン本体に設定が正しく反映される時点

テストレベル：システムストレーベル（全体としての機能連携を検証）

■ 検証すべき主な異常系シナリオのカテゴリ

1. ネットワーク関連の障害
2. 機器状態の異常
3. タイミング関連の異常状態

OKです！
要件定義プロセスに
進んでください。

ステップ3 要件定義の初期分析

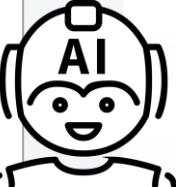
仕様から条件とルールを抽出し提示

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

 ワークフロー処理 >

[C1]. 要件定義の初期解析
提供された仕様を分析し、明示的な条件とルールを抽出します。

主要コンポーネントと機能

1. スマートリモコン
 - ネットワーク通信機能 (Wi-Fi、クラウド接続)
 - 赤外線送信機能 (エアコン制御用)
 - センサー機能 (温度・湿度・照度・人感)
 - スケジュール管理機能
 - オートメーション機能
 - ジオフェンス機能
 - 音声アシスタント連携機能
 - API連携機能
 - ユーザー管理機能
 - OTAアップデート機能
2. スマホアプリ
 - リモート操作機能 (宅内/宅外)
 - スケジュール設定機能
 - ジオフェンス設定機能
 - オートメーション設定機能
 - シーン設定・実行機能
 - 家族共有機能
 - 操作ログ確認機能

洗い出された項目

■ 主要コンポーネントと機能

1. スマートリモコン
 - クラウド接続機能
 - 赤外線送信機能
 - Wi-Fi接続機能

2. スマートフォンアプリ

- ネットワーク経由での操作指示機能
- 各種設定変更 (温度・風量・モード等) 機能
- スケジューリング操作機能 (タイマーなど)

3. エアコン本体

- 赤外線受信機能
- 各種操作機能
(電源・モード・温度・風量など)
- ...

■ 明示的な条件とルール

1. 通信経路

- アプリ インターネット
クラウド スマートリモコン 赤外線 エアコン

2. 通信条件

- アプリはWi-Fi/4G/5G経由でクラウドに接続
- スマートリモコンはWi-Fi経由でクラウドに接続
- スマートリモコンは赤外線でエアコンに接続

3. 状態条件

- スマートリモコンとエアコンは事前にペアリング・学習済み
- エアコン本体は赤外線信号を受信可能な状態であること
- ...

■ 異常系シナリオ (テスト対象)

1. ネットワーク関連の異常

- アプリ側のネットワーク通信不能
- スマートリモコン側のネットワーク通信不能
- 通信中の接続断

2. タイミング関連の異常

- 操作コマンド送信中の通信途絶
- ...

コンポーネントと機能、周辺情報を整理

ステップ3 要件定義の初期分析

あいまいな部分の確認に対して回答

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

確定事項

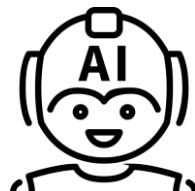
特定された曖昧性について、明確化のための質問と提案を行います。

質問1: 通信障害の定義と範囲について

通信障害の具体的状態や種類、発生場所をどのように定義するべきでしょうか？

提案:

1. 障害の種類を「完全断絶（No Connection）」「接続不安定（Unstable）」「高遅延（High Latency）」に分類し、それぞれのケースをテスト
2. 障害発生箇所を「アプリ～クラウド間」「クラウド～スマートリモコン間」「スマートリモコン～エアコン間（赤外線）」に分類
3. 障害の検出は、HTTP/WSエラーコード、タイムアウト、接続エラーなどの標準的なネットワークエラーに基づいて判定



それぞれ質問に回答8件

質問1：通信障害の具体的状況や種類、発生場所はどう定義する？

通信の種類を「完全断絶（No Connection）」「接続不安定（Unstable）」「高遅延（High Latency）」とする

（Unstable）」「高遅延（High Latency）」とする

質問2：通信障害発生時の通知と処理はどうする？

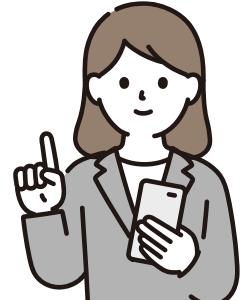
UIでポップアップ通知を表示

質問3：通信が回復した場合の処理は？

回復後に自動で再送処理を行う

再送が失敗した場合は明示的にエラーとして通知し、ユーザーに再操作を促す

...



ステップ4 さらに不明点があれば確認

さらに細かい点で矛盾を指摘され回答

整理された要件

 ワークフロー処理 >
[C3]. ご回答ありがとうございます。明確になった情報を整理します。

明確化された要件

1. 通信障害の定義と範囲
 - ・障害種類:「完全断絶」「接続不安定」「高遅延」の3パターン
 - ・障害発生箇所:「アプリ～クラウド間」「クラウド～スマートリモコン間」「スマートリモコン～エアコン間(赤外線)」
 - ・障害検出方法: HTTP/WSエラーコード、タイムアウト、接続エラーなどの標準的なネットワークエラーによる判定
2. エラー処理と通知



要件の矛盾も説明してくれる

最後に、非稼働日表示の初期状態と表示/非表示の切り替え方法について、少し説明が矛盾しているようです。初期状態はOFF(チェックあり)でグレー表示とのことですが、ONでグレー表示、OFFで通常表示という説明と整合しません。この点を確認させていただけますか？

1. テスト目的の明確化

2. 仕様情報の整理

3. 業務フロー分析&出力

4. 基本シナリオフロー出力

追加の確認事項へ回答

■ 通信回復後の動作

通信が戻ったら、画面を開き直せば最新の状態を取得します。

■ 接続が切れたり繋がったりする場合

操作の成功・失敗だけ伝えます。エラーが出たり消えたりする感じです。

■ 複数の障害が同時に起きたとき

まずアプリが開けるのが前提。その時点で繋がっていれば操作OK。

繋がってなければ保留、でもアプリ自体は開けます。スマートリモコンは復旧すれば待機状態になります。



■ エラーが重なったときの通知

すでにエラーが表示されている時に別のエラーが起きても、そっちは無視されます。

■ オフライン中の操作は？

キャッシュせず、破棄します。

ステップ5 フロー分析

フロー分析をクロージングさせる



ワークフロー処理 >

ありがとうございます。追加情報をもとに、より詳細なフロー分析を進めます。

[C4]. 明確化された業務フローとしてあるべき姿を更新します。

追加情報の整理

1. 通信回復時の動作:
 - ・操作画面再表示時に最新状態を取得する
 - ・自動同期はない（ユーザーアクションが必要）
2. 間欠的障害の処理:
 - ・処理の成功・失敗のフィードバックのみ
 - ・接続状態の変化自体は積極的に通知しない
3. 複合障害の復旧順序:
 - ・アプリの表示・操作可能状態が最優先
 - ・操作時にネットワーク接続確認
 - ・スマートリモコン本体は復旧後待機状態
4. エラー通知の重複制御:
 - ・既存エラー表示中の新規エラーは破棄
 - ・一度に1つのエラーのみ表示



確認後整理された要件

1. 通信回復時の動作:

1. 操作画面再表示時に最新状態を取得する
2. 自動同期はない（ユーザーアクションが必要）

2. 間欠的障害の処理:

1. 処理の成功・失敗のフィードバックのみ
2. 接続状態の変化自体は積極的に通知しない

3. 複合障害の復旧順序:

1. アプリの表示・操作可能状態が最優先
2. 操作時にネットワーク接続確認
3. スマートリモコン本体は復旧後待機状態

...

フロー図要素の再整理

ユーザー操作フロー（正常系）

1. アプリを起動
2. エアコン操作画面を表示（最新状態取得）
3. 操作パラメータを設定
4. 操作実行指示
5. 操作結果確認

通信障害発生時のフロー

1. アプリはネットワーク接続確認
2. 接続障害検出時はエラー表示

...

ステップ6 業務フロー・シナリオ出力

業務フロー図で全体を把握

1. テスト目的の明確化

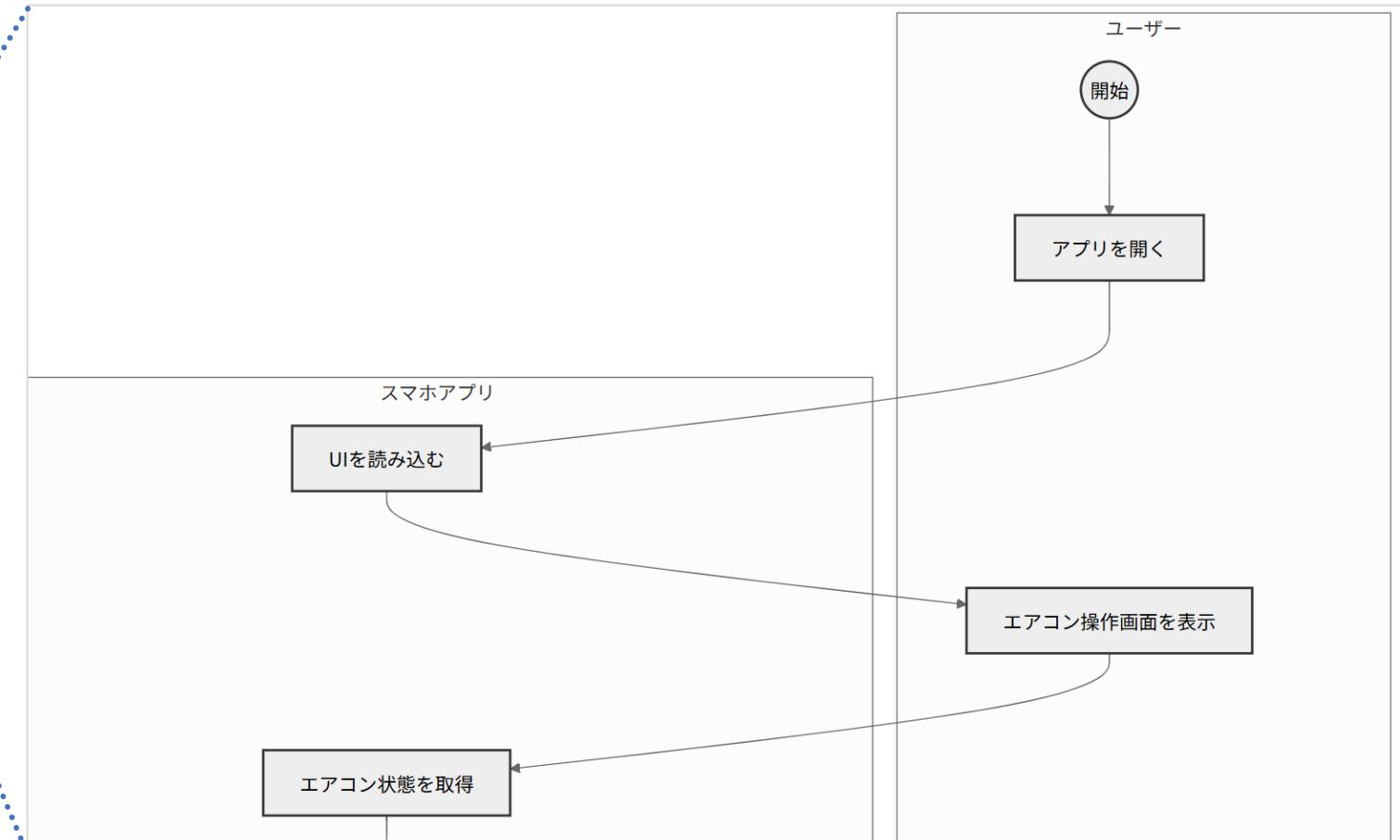
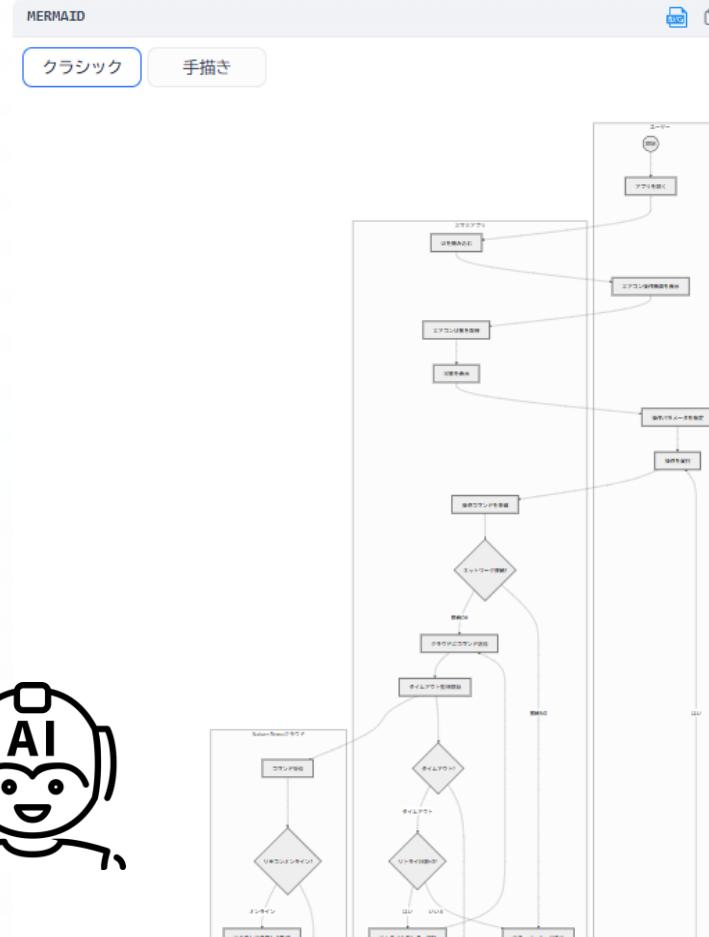
2. 仕様情報の整理

3. 業務フロー分析&出力

4. 基本シナリオフロー出力

業務フロー(MERMAID形式)

異常系シナリオテスト用業務フロー図



ステップ6 業務フロー・シナリオ出力

合計10シナリオを出力

1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

異常系テストシナリオ（基本シナリオフロー）

以下に、業務フロー図に基づいた主要な異常系テストシナリオを定義します。

シナリオ1: アプリ側ネットワーク障害

アクター: ユーザー、スマホアプリ

パス: Start → OpenApp → LoadUI → ShowEcoScreen → FetchStatus → DisplayStatus → SetParams → ExecuteOp → PrepareCommand → CheckNetwork(接続NG) → ShowError → CheckErrorMessage → UserDecideRetry → ExecuteOp...

シナリオ2: スマートリモコン側ネットワーク障害

アクター: ユーザー、スマホアプリ、Nature Remoクラウド

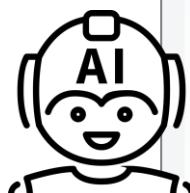
パス: Start → OpenApp → LoadUI → ShowEcoScreen → FetchStatus → DisplayStatus → SetParams → ExecuteOp → PrepareCommand → CheckNetwork(接続OK) → SendCommand → StartTimeout → ReceiveCommand → CheckDeviceOnline(オフライン) → SendResponse → ProcessResponse → ShowError → CheckErrorMessage...

シナリオ3: 操作タイムアウト・リトライ

アクター: ユーザー、スマホアプリ、Nature Remoクラウド

パス: Start → OpenApp → LoadUI → ShowEcoScreen → FetchStatus → DisplayStatus → SetParams → ExecuteOp → PrepareCommand → CheckNetwork(接続OK) → SendCommand → StartTimeout → CheckTimeout(タイムアウト) → CheckRetryCount(はい) → IncrementRetry → SendCommand... (3回リトライ後) → CheckRetryCount(いいえ) → ShowError...

シナリオ4: 赤外線送信障害



ステップ7 シナリオを日本語で出力

日本語に変換してわかりやすく

それぞれのシナリオについて、シナリオの解説をいれてほしい。

ワークフロー処理 >

異常系シナリオテスト 解説付き基本シナリオフロー

シナリオ1: アプリ側ネットワーク障害

解説

このシナリオは、ユーザーのスマホがWi-Fi/4G/5Gネットワークに接続できない状態でアプリを操作した場合の挙動を検証します。ユーザーがエアコン操作を実行しようとしても、アプリがクラウドサーバーと通信できないため、操作が完了できません。システムはこの状況を適切に検出し、ユーザーに明確なエラーメッセージを表示する必要があります。また、ネットワーク接続が回復した後に、ユーザーが再試行した場合の挙動も確認します。

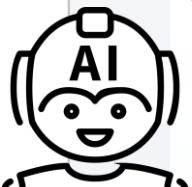
基本シナリオフロー

1. ユーザーがアプリを起動
2. アプリがUIを読み込み、エアコン操作画面を表示
3. アプリがエアコン状態を取得しようとするが、ネットワーク接続がない
4. アプリは最後の既知状態を表示
5. ユーザーが操作パラメータを設定（例：冷房モード、設定温度25°C）
6. ユーザーが操作実行ボタンをタップ
7. アプリが操作コマンドを準備
8. アプリがネットワーク接続状態を確認し、接続不可を検出
9. アプリがエラーメッセージ「インターネット接続をご確認ください」を表示
10. ユーザーがエラーメッセージを確認
11. ユーザーが操作を再試行するか、操作をキャンセル

検証ポイント

- アプリがネットワーク接続不可を正しく検出できること
- 適切なエラーメッセージが表示されること
- エラー検出から通知までが3秒以内であること
- アプリが操作可能な状態を維持していること
- ネットワーク回復後に再試行した場合、正常に処理が完了すること

シナリオ2: スマートリモコン側ネットワーク障害



1.テスト目的の明確化

2.仕様情報の整理

3.業務フロー分析&出力

4.基本シナリオフロー出力

提示されたシナリオ

・シナリオ1: アプリ側ネットワーク障害

アプリの通信不可時に適切なエラー表示と再試行ができるか確認

・シナリオ2: スマートリモコン側ネットワーク障害

リモコンがオフラインの際にクラウド経由でエラーが返されるか確認

・シナリオ3: 操作タイムアウト・リトライ

応答遅延時に自動リトライと適切なエラー通知が行われるか確認

・シナリオ4: 赤外線送信障害

障害物による赤外線送信失敗が正しく検出・通知されるか確認

・シナリオ5: エアコン電源オフ状態での操作

電源オフでも操作が成功と誤認されるケースを想定し、仕様として扱えるか確認

・シナリオ6: 通信途絶・回復

通信が途中で切れて復旧した場合に、正常動作に戻るかを確認

・シナリオ7: 間欠的通信障害

接続と切断を繰り返す環境での安定性と通知の正確さを確認

・シナリオ8: 複合障害（アプリ側ネットワーク障害 + エアコン電源オフ）

ネットワーク復旧後もエアコン側の非応答が誤検出されないか確認

・シナリオ9: 高遅延環境での操作

高遅延時に複数コマンドが重複しても正しい結果になるかを確認

・シナリオ10: 複合障害（クラウドサーバー障害 + スマートリモコン再起動）

複数障害時のリトライ・通知・安定性を確認

将来はアプリ化へ

フェーズやプロパティ情報を可視化、検索などの機能も予定

Test Planning Agent β

図書館の資料貸し出し業務シナリオ作成

1 テスト計画情報の入力 2 業務フロー分析 3 ベースシナリオの設定 4 テスト観点の設定 5 TD連携実行

シナリオテストを作成するにあたり、まずテストの目的を明確にしたいと思います。
以下についてお聞かせください:

- 1) テスト対象となるシステムやアプリケーションの概要を教えていただけますか?
- 2) このテストで特に確認したい機能や動作はありますか?
- 3) これらの情報をもとに、シナリオテストの具体的な目的を定めていきたいと思います。 15:40 回

業務一覧をお渡します。
開架資料持ち込み
利用者が開架資料を持ち込む
資料利用者確認
利用者の身分証明書や登録情報を確認する 15:42 回

要件定義の初期解析を行います。
少々お待ちください! 15:45 回

Message

Test Planning Agent β shift_taro@shiftinc.jp ...

テスト計画情報

- 案件番号(ANO): 001-9999-9999
- 案件名: ○○市様_図書館システム刷新プロジェクト
- 対象システム: 図書館貸出システム
- テストスコープ: 会員登録から貸出と返却までの業務フロー全般
- テスト目的: 業務フローの網羅性強化 (抜けによる本番障害を受けた改善アクション)
- テスト粒度: 業務シナリオ (システムテストからUATを想定)

業務フローとベースシナリオ 3

業務フロー図(1) 業務フロー図(2) ベースシナリオ一覧(1)

シナリオ名	説明
1. 開架資料登録	開架資料登録
2. 開架資料貸出	開架資料貸出
3. 開架資料返却	開架資料返却
4. 開架資料検索	開架資料検索
5. 開架資料登録(予約者)	開架資料登録(予約者)
6. 開架資料貸出(予約者)	開架資料貸出(予約者)
7. 開架資料返却(予約者)	開架資料返却(予約者)
8. 開架資料検索(予約者)	開架資料検索(予約者)

出力サマリ

- 業務フロー作成回数: 2回
- ベースシナリオケース数: 9本
- ベースシナリオ全ステップ数: 129ステップ
- テスト観点作成数: 未作成
- 因子水準作成数: 未作成
- TD連携ステータス: 未連携

まとめ

30分ほどで無理なくシナリオを客観的に洗い出せる未来が見えた！

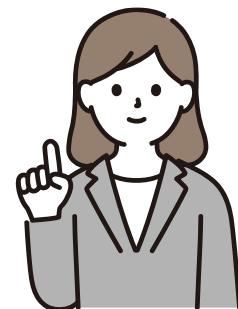
当初の期待

1. 複雑なテストシナリオを整理して的確に洗い出してくれる
2. 思いつかなかった観点も提示し、シナリオの精度を上げる
3. 自分でウンウン唸るよりも素早くシナリオのたたき台ができる

お土産
紹介したチャットの全文PDF



本日SHIFTブースで
このお土産を配ります！
ぜひお越しください！



結果

期待を超えるUX



ベテラン設計者がコンサルティングしてくれる安心感（仕様や状態の確認など）



30分足らずで行える素早さ



環境やシナリオが整理されていく気持ちよさ

気づき



シナリオのつくり方を追体験できる、OJTになる隣にできる先輩がいる



客観に回ることで「あ、こういうのもやっておきたい」という発見ができる



ほどよいステップバイステップで、各アウトプットに対するレビューが非常にしやすい



SHIFT · 製品紹介



CAT・TD フリープラン リリース！

「テスト管理 CAT」で検索して今すぐ利用開始！

その常識、変えてみせる。



小規模なチーム向けに永続的に無償でご利用いただけるプランをご用意しました！

製品HPイメージ

統合型ソフトウェアテスト 管理ツール「CAT」 フリープラン リリース！

22年7月、テスト管理に必要な機能を無期限・無料で利用できるプランをリリース。小規模な開発チームや長期で試したい PMOメンバーに最適なプランです。



フリープランの特徴

主要機能は
制限無し

テスト管理、課題管理、
進捗管理、分析

最大ユーザー数
10ユーザー

利用開始まで
約3分
カードの登録も不要！

サポートも利用化
(ベストエフォート)

サンプルデータも
利用可！



こんなお客様へおすすめ

- ・ 小規模なチームでテスト管理・課題管理を利用したい
- ・ ノーマルプランの利用検討のために長期で利用したい
- ・ CATに興味があるのでとりあえず触ってみたい



サンプルデータを触って各種機能をお試しいただけます

The screenshot displays the CAT software's user interface. At the top, there's a search bar and a button to show completed projects. Below is a table of projects with columns for ID, Project Name, Current Status, Progress, Total Cases, and Consumed Cases. The main area shows a Gantt chart with tasks over time and a detailed view of a specific task with its status (OK), file attachments, and notes. A legend indicates OK, Pending, and NG status.

制限事項（ノーマルプランとの差異）

- ・ 同時プロジェクト管理数：5個
- ・ 最大ユーザー数：10ユーザー
- ・ 90日利用しない場合自動クローズ
- ・ 連携機能などの制限あり
(外部BTS連携、ガントチャートなど)
詳細は[価格ページ](#)をご確認ください



とことん使い倒す技

- ・ 1組織内でもメールアドレスが異なる場合は複数の環境も構築可能
- ・ 課題管理のカスタマイズも無制限
カスタムフィールドやフローで課題管理・分析基盤を構築
- ・ テスト仕様書や課題の登録は無制限
- ・ 高度な進捗管理、分析機能でプロジェクトを見る化

今日の話に興味をもってくださった方へ

ブースにもぜひ
お立ち寄りください！



資料の公開やイベント告知は
Xで配信中！

カジュアル面談も受け付け中！
https://x.com/shiftevolve_jp



SHIFT EVOLVE

@shiftevolve_jp フォローされています

SHIFTグループ(@SHIFT_cp)の技術アカウント。グループの技術情報や技術イベント情報を発信します。

採用に関するご相談はDMでも受け付けています！お気軽にご連絡ください。

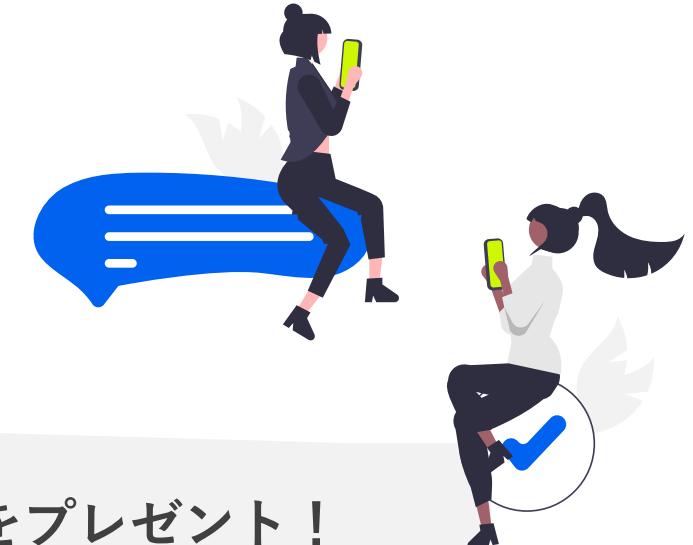
shiftevolve.connpass.com 2021年5月からXを利用しています

アンケートにご協力お願いします。

その常識、変えてみせる。

SHIFT

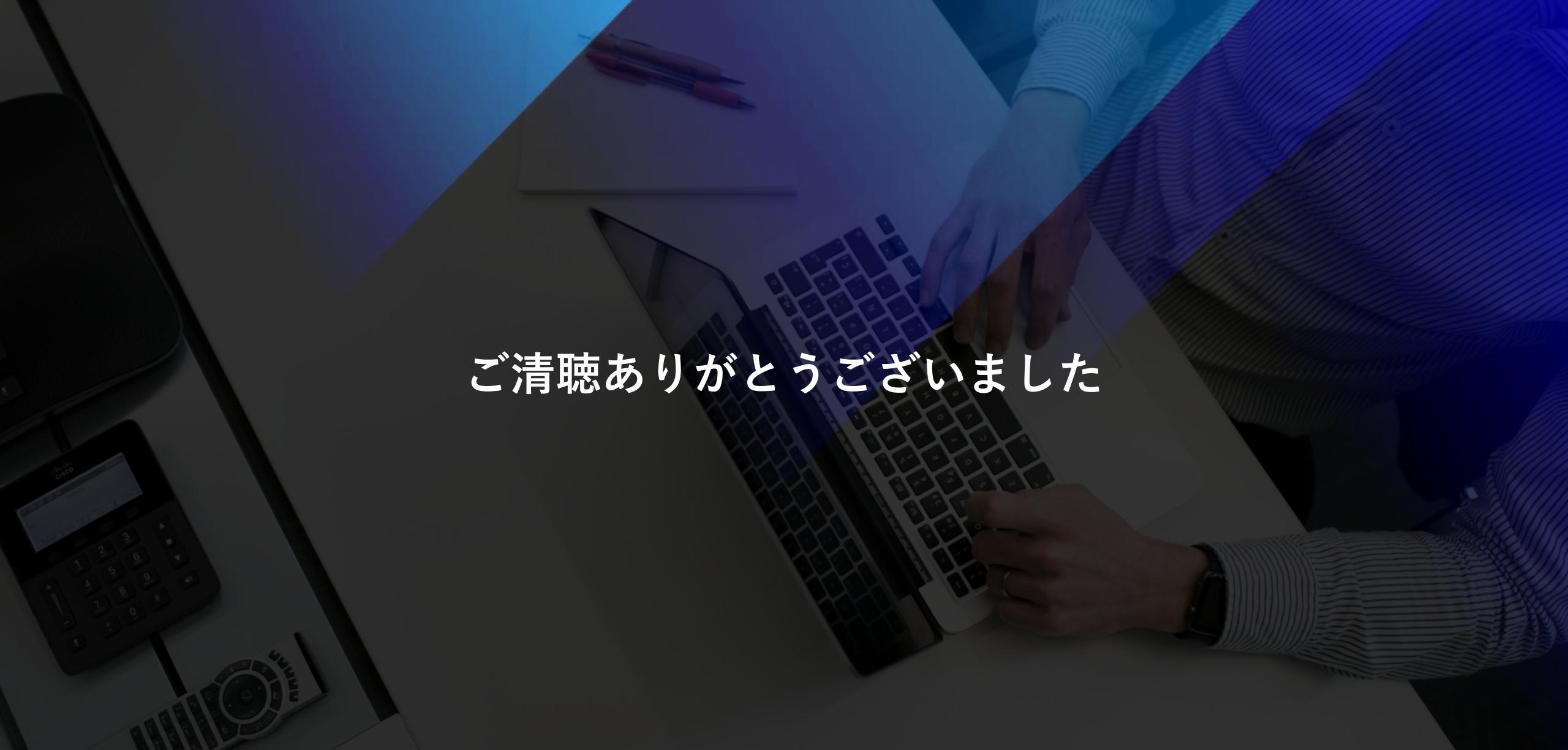
本セッションの感想をお聞かせください。



回答完了画面のご提示で、SHIFTブースにてノベルティをプレゼント！

その常識、変えてみせる。

SHIFT



ご清聴ありがとうございました

その常識、変えてみせる。

SHIFT